

「知りたい」と「伝えたい」がつながる！

平岸なんでも talks 4 連発！

2026.10.13

放課後の教室を舞台に、生徒が自分の興味・関心のあるテーマについて発表する「平岸なんでも talks」。今回は、9月28日(月)と10月6日(火)に、3年生による4つの発表が行われました。

第4回「これからの公園のあり方」

藤島くんが発表したのは、「これからの公園のあり方」。子ども用の遊具が減ってきているという身近な変化を入口に、都市公園の魅力や利便性を高める新たな仕組みとして「Park-PFI(公募設置管理制度)」を紹介しました。

民間のノウハウや資金を活用しながら公園をより魅力的な場所にしていく仕組みについて、具体的な事例を交えながら発表。身近な「公園」から、まちづくりや地域の未来について考える機会となりました。



第5回「“思い込み”が作るジェンダーギャップ」

菊池さんは、「“思い込み”が作るジェンダーギャップ」をテーマに発表しました。なぜ理系分野を選択する女性が少ないのか。その背景には、教育現場や家庭の中にある「理系は男性向き」といった無意識の思い込みがあるのではないかと問題提起。さらに、理系分野で活躍する女性のロールモデルを増やすことなど、状況を変えていくための具体的な方法についても紹介しました。

「当たり前」と思っていることを一度立ち止まって考えることの大切さを感じさせる発表でした。



第6回「ばんえい競馬から見る北海道の文化と未来」

小野さんは、「ばんえい競馬から見る北海道の文化と未来」をテーマに発表しました。

ばんえい競馬がもたらす経済的な効果や地域への貢献について紹介するとともに、後継者不足など、これからのばんえい競馬が抱える課題についても発表しました。

そして最後には、「自分自身も馬の飼育員となり、ばんえい競馬に貢献したい」という自分の未来についての思いを語りました。北海道の文化を知るだけでなく、「自分はこれからどう関わっていききたいのか」まで考えた発表となりました。



第7回「総合入試って楽しなかったの!?!」

10月6日(火)には、寺門くんによる「総合入試って楽しなかったの!?!」が行われました。実は寺門くんは、第3回のなんでも talks でも同じテーマについて発表しています。前回の発表を聞いた後輩たちから、「他の友達にも聞かせたい」「もう一度発表してほしい」という声上がり、今回の再登壇が実現しました。

今回は、前回よりもさらに内容を深め、総合型選抜に向けて高校3年間でどのようなことに取り組んできたのか、どのような準備や対策をしてきたのかを詳しく紹介しました。

実際に挑戦した先輩だからこそ語れる経験や苦労、準備の大切さに、参加した後輩たちも熱心に耳を傾けていました。



これからも平岸なんでも talks では、生徒たちの「好き」や「知りたい」を起点に、新たな学びと挑戦を生んでいきたいと思います